

① 1号井戸跡 [SF1]



② 2号井戸跡 [SF2]



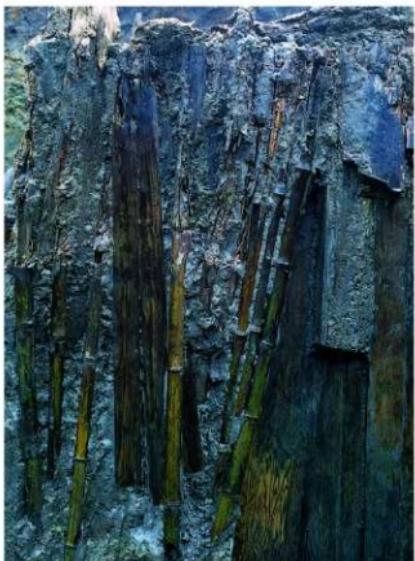
③ 3号井戸跡 [SF3]



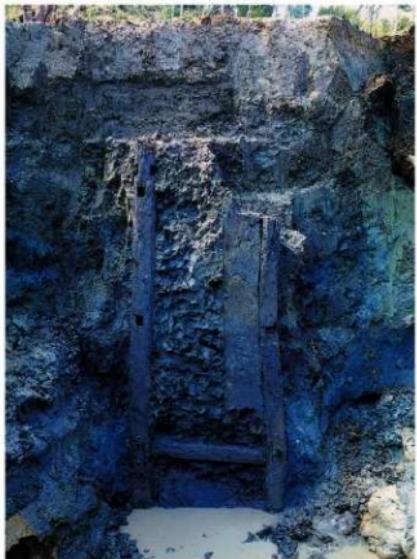
④ 5号井戸跡 [SF5]



① 5号井戸跡【SF5】縦板検出状況



② 5号井戸跡【SF5】被覆縦板検出状況



③ 6号井戸跡【SF6】検出状況



④ 石列B検出状況【南方向から】



① C区石塔群 [上から]



② 六地蔵幘 [東方向から。左：南幘・右：北幘]

## 序

宮崎県教育委員会では、一般国道269号（加納バイパス）交通円滑化事業に伴い、宮崎市大字恒久字曾井に所在する曾井第2遺跡の発掘調査を行いました。

曾井第2遺跡は、中世から近世初頭にかけて日向国の歴史上度々登場してくる曾井城跡に隣接する場所に位置します。今回の発掘調査では、古代から近世にかけての幅広い時代の遺構・遺物が多数確認されました。中でも中世から近世に属する掘立柱建物跡・井戸跡などの遺構群や石塔群・陶磁器類をはじめとする多数の遺物が確認され、曾井城に連動するように展開した遺跡の様子が推測できます。また、これらの遺構・遺物から考えると、この遺跡は、中世から近世後半にかけての石塔群を伴う屋敷地を連想させるものとなり、当時の文献などと併せて考えた結果、明治初期に行われた廃仏毀釈によって廃された瑞雲寺跡もしくは寺院関連施設跡である可能性が高いとの結論にいたりました。

本書が学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場で活用され、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解の一助となることを期待します。

なお、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関をはじめ、御指導・御助言をいただいた先生方、ならびに地元の方々に心からの謝意を表します。

平成20年3月

宮崎県埋蔵文化財センター  
所長 清野 勉

## 例　　言

1. 本報告書は、一般国道269号(加納バイパス)交通円滑化事業に伴い、宮崎県教育委員会が行った曾井第2遺跡(第一次調査・第二次調査)の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、宮崎県教育委員会が主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 発掘調査期間は、第一次調査が平成17年8月17日から平成18年3月6日まで(調査実施日120日)、第二次調査が平成19年5月24日から平成19年6月29日まで(調査実施日19日)行った。
4. 現地での実測・写真撮影等の記録は、第一次調査を主に甲斐貴充・柳田裕三が、第二次調査を主に和田理啓が行った。また、第一次調査時には谷口武範・福田泰典・丹俊詞が加わった。空中写真撮影は(株)九州航空に、基準点・水準点・グリッド杭設置は(有)大淀測量設計事務所に、石塔群の写真測量による実測図化をアジア航測株式会社に、自然科学分析委託を株式会社古環境研究所と株式会社吉田生物研究所に、出土木製品の応急処置を株式会社吉田生物研究所に委託した。
5. 整理作業は宮崎県埋蔵文化財センターで行った。図面の作成・実測・トレースは、第一次調査分を甲斐貴充が、第二次調査分を和田理啓が整理作業員の協力を得て行った。
6. 本書で使用した第1図「曾井第2遺跡周辺遺跡図」は国土地理院作成「宮崎(1/50,000)」を、第2図「曾井第2遺跡周辺図」と第3図「曾井第2遺跡グリッド配置図」は宮崎市作成「宮崎市現況図」を基に作成した。
7. 土層断面等の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」に掲っているが、数字等記載のない色名はその限りではない。
8. 本書で使用した方位は、「N」と記載しているものは座標北(座標第II系)であり、その他「M.N」と記載しているものは磁北(磁針方位は西偏約6.0°)である。レベルは海拔絶対高である。
9. 本書で使用した遺構略号は以下のとおりである。

S B…掘立柱建物跡	S C…土坑	S E…溝状遺構	S F…井戸跡
S Z…性格不明遺構(池状遺構・遺物集中区を含む)			
10. 本書の遺構及び遺物実測の縮尺は明記しているが、主なものについては一部例外を除いて以下のように統一している。

掘立柱建物跡…1/60	土坑…1/20	溝状遺構…1/80	井戸跡…1/20
土器・土師器・陶磁器…1/3	石器[石錐・磨石・敲石]…1/2, 1/4	瓦…1/4	
大形石器[石臼など]…1/8	石塔類[六地蔵輪・板碑など]…1/6, 1/10, 1/12		
木製品[井戸枠]…1/4, 1/10			
11. 本書は、第Ⅲ章を和田理啓・第Ⅳ章第1節～第5節を(株)古環境研究所・第Ⅳ章第6節を(株)吉田生物研究所・第Ⅳ章第7節を柳田裕三が執筆を、それ以外の執筆と編集を甲斐貴充が担当した。
12. 出土遺物・その他諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターに保管している。

## 本文目次

<b>第Ⅰ章 はじめに</b>	1 ~ 6
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の組織	1
第3節 遺跡の位置と環境	2 ~ 6
<b>第Ⅱ章 第一次調査の記録</b>	7 ~ 115
第1節 調査の概要	7 ~ 8
第2節 基本層序	9
第3節 A区の調査	10~53
第4節 B区の調査	54~61
第5節 C区の調査	61~88
第6節 A ~ C区遺構出土遺物	89~115
<b>第Ⅲ章 第二次調査の記録</b>	116~126
第1節 調査の概要	116
第2節 D区の調査	116~126
<b>第Ⅳ章 自然科学分析</b>	140~168
第1節 花粉分析	140~145
第2節 寄生虫分析	146
第3節 珪藻分析	147~152
第4節 植物珪酸体分析	153~157
第5節 樹種同定 (1)	158~160
第6節 樹種同定 (2)	161~165
第7節 フローテーション	166~168
<b>第Ⅴ章 まとめ</b>	169~172

## 挿図目次

第1図 曽井第2遺跡周辺遺跡図 (1/50,000)	3	第11図 5号井戸跡出土木製品④ (1/10・1/4)	16
第2図 曽井第2遺跡周辺図 (1/5,000)	4	第12図 5号井戸跡出土木製品⑤ (1/4)	17
第3図 曽井第2遺跡グリッド配置図 (1/2,500)	6	第13図 5号井戸跡出土木製品⑥・遺物 (1/8・1/3)	18
第4図 一次調査分遺構検出状況図 (1/750)	8	第14図 3号溝状遺構図及び出土遺物 (1/40・1/3)	20
第5図 土層堆積状況図 (1/120)	9	第15図 1号掘立柱建物跡 (1/60)	21
第6図 A・C区遺構検出状況図 (1/250)	10	第16図 2号掘立柱建物跡 (1/60)	22
第7図 5号井戸跡平面図 (1/50)	11	第17図 3号掘立柱建物跡 (1/60)	23
第8図 5号井戸跡出土木製品① (1/10)	13	第18図 4号掘立柱建物跡 (1/60)	24
第9図 5号井戸跡出土木製品② (1/10)	14	第19図 5号掘立柱建物跡 (1/60)	25
第10図 5号井戸跡出土木製品③ (1/10)	15	第20図 1号・10号溝状遺構 (1/100・1/40)	26

第21図	2号・7号溝状遺構 (1/80・1/40)	27
第22図	8号・9号溝状遺構 (1/80) 及び出土遺物 (1/3)	27
第23図	石列A出土遺物 (1/3)	28
第24図	石列B検出状況図 (1/80)	29
第25図	石列B検出状況及び土層堆積状況図 (1/40)	30
第26図	石列C検出状況図 (1/40)	31
第27図	石列D・E検出状況図 (1/40)	32
第28図	1号井戸跡検出状況図 (1/20)	34
第29図	1号井戸跡出土木製品 (1/10)	35
第30図	1号井戸跡出土遺物 (1/2・1/3・1/4)	36
第31図	2号井戸跡検出状況図 (1/20)	37
第32図	3号井戸跡検出状況図① (1/20)	38
第33図	3号井戸跡検出状況図② (1/20)	39
第34図	3号井戸跡出土遺物 (1/2・1/3)	39
第35図	4号井戸跡検出状況図① (1/20)	40
第36図	4号井戸跡検出状況図② (1/20)	41
第37図	4号井戸跡出土遺物 (1/2・1/3・1/4)	41
第38図	池状遺構検出状況図 (1/50)	43
第39図	池状遺構出土遺物① (1/3)	44
第40図	池状遺構出土遺物② (1/3)	45
第41図	池状遺構出土遺物③ (1/2・1/3・1/4)	46
第42図	1号・2号土坑検出状況図 (1/20)	47
第43図	1号・2号土坑断面図 (1/20)	48
第44図	3号・4号土坑検出状況図 (1/20)	48
第45図	5号土坑検出状況図 (1/20)	49
第46図	2～5号遺物集中区出土遺物 (1/3)	50
第47図	6号遺物集中区出土遺物 (1/3・1/2)	51
第48図	7号遺物集中区出土遺物① (1/3)	51
第49図	7号遺物集中区出土遺物② (1/3・1/4)	52
第50図	8号遺物集中区出土遺物 (1/3)	52
第51図	B区遺構検出状況図 (1/80)	54
第52図	1号周溝状遺構検出状況図 (1/40) 及び出土遺物 (1/3)	55
第53図	6号掘立柱建物跡 (1/60)	57
第54図	7号掘立柱建物跡 (1/60)	58
第55図	8号掘立柱建物跡 (1/60)	59
第56図	4～6号・11～12号溝状遺構断面図 (1/20)	60
第57図	4号・12号溝状遺構出土遺物 (1/3)	61
第58図	C区遺構検出状況図 (1/250)	61
第59図	石塔群検出状況図[平面・立面] (1/50)	63
第60図	六地蔵輪立面図①[東方向から] (1/12)	65
第61図	六地蔵輪立面図②[西方向から] (1/12)	66
第62図	石塔群出土石塔① (1/6)	68
第63図	石塔群出土石塔② (1/6)	69
第64図	石塔群出土石塔③ (1/6)	70
第65図	石塔群出土石塔④ (1/6)	71
第66図	石塔群出土石塔⑤ (1/6)	72
第67図	石塔群出土石塔⑥ (1/6)	73
第68図	石塔群出土石塔⑦ (1/6)	74
第69図	石塔群出土石塔⑧ (1/6)	75
第70図	石塔群出土石塔⑨ (1/6)	77
第71図	石塔群出土石塔⑩ (1/6)	78
第72図	石塔群出土石塔⑪ (1/6)	79
第73図	石塔群出土石塔⑫ (1/6)	80
第74図	石塔群出土石塔⑬ (1/6・1/3)	81
第75図	石塔群出土石塔⑭ (1/6)	82
第76図	石塔群出土石塔⑮ (1/6)	83
第77図	石塔群出土石塔⑯ (1/6)	84
第78図	石塔群出土石塔⑰ (1/10)	85
第79図	石塔群出土石塔⑱ (1/12・1/6)	85
第80図	石塔群出土石塔⑲ (1/10)	86
第81図	石塔群出土石塔⑳ (1/10)	87
第82図	石塔群出土石塔㉑ (1/10)	88
第83図	石塔群出土石塔㉒ (1/10)	88
第84図	古代～中世遺構外出土遺物分布状況図 (1/250)	89
第85図	遺構外出土遺物① (1/3)	91
第86図	遺構外出土遺物② (1/3)	92
第87図	遺構外出土遺物③ (1/3)	93
第88図	遺構外出土遺物④ (1/3)	94
第89図	遺構外出土遺物⑤ (1/3)	96
第90図	遺構外出土遺物⑥ (1/3)	96
第91図	遺構外出土遺物⑦ (1/3)	97
第92図	遺構外出土遺物⑧ (1/3)	97
第93図	遺構外出土遺物⑨ (1/3)	98
第94図	遺構外出土遺物⑩ (1/3)	99
第95図	遺構外出土遺物⑪ (1/3)	100
第96図	遺構外出土遺物⑫ (1/3)	101
第97図	遺構外出土遺物⑬ (1/3)	102
第98図	遺構外出土遺物⑭ (1/3)	103
第99図	遺構外出土遺物⑮ (1/3)	104
第100図	遺構外出土遺物⑯ (1/3)	105
第101図	遺構外出土遺物⑰ (1/3)	106
第102図	遺構外出土遺物⑱ (1/3)	106
第103図	遺構外出土遺物⑲ (1/3)	107
第104図	遺構外出土遺物⑳ (1/3)	108
第105図	遺構外出土遺物㉑ (1/3)	109
第106図	遺構外出土遺物㉒ (1/4)	110
第107図	遺構外出土遺物㉓ (1/4)	111
第108図	遺構外出土遺物㉔ (1/1・1/2・1/5)	112
第109図	遺構外出土遺物㉕ (1/10)	113
第110図	遺構外出土遺物㉖ (1/10)	114
第111図	遺構外出土遺物㉗ (1/1・1/2)	115
第112図	D区遺構検出状況図 (1/30)	116
第113図	D区出土遺物①[板碑] (1/12)	117
第114図	D区出土遺物②[板碑] (1/12)	118
第115図	D区出土遺物③[無縫塔] (1/10)	119
第116図	D区出土遺物④[石塔竿部] (1/10)	119
第117図	D区出土遺物⑤[石塔中台部] (1/10)	120
第118図	D区出土遺物⑥[五輪塔片] (1/10)	120

第119図 D区出土遺物⑦[石塔] (1/10) .....	121
第120図 D区出土遺物⑧[墓碑] (1/10) .....	122
第121図 経石出土状況図 (1/10) .....	123
第122図 D区出土遺物⑨[経石] (1/3) .....	123
第123図 D区出土遺物⑩[経石] (1/3) .....	124
第124図 D区出土遺物⑪[経石] (1/3) .....	125

## 表 目 次

第1表 挖立柱建物跡埋土分類表.....	20
第2表 A区検出挖立柱建物跡一覧表.....	24
第3表 A区検出溝状造構一覧表.....	28
第4表 B区検出挖立柱建物跡一覧表.....	56
第5表 B区検出溝状造構一覧表.....	60
第6表 D区出土経石一覧表.....	126
第7表 出土遺物観察表①.....	127
第8表 出土遺物観察表②.....	128
第9表 出土遺物観察表③.....	129
第10表 出土遺物観察表④.....	130
第11表 出土遺物観察表⑤.....	131
第12表 出土遺物観察表⑥.....	132
第13表 出土遺物観察表⑦.....	133
第14表 出土遺物観察表⑧.....	134
第15表 出土遺物観察表⑨.....	135
第16表 出土遺物観察表⑩.....	136
第17表 出土遺物観察表⑪.....	137
第18表 出土遺物観察表⑫.....	138
第19表 出土遺物計測表.....	139
第20表 曾井第2遺跡における花粉分析結果.....	143
第21表 曾井第2遺跡における珪藻分析結果.....	149
第22表 曾井第2遺跡における植物珪酸体分析結果.....	156
第23表 曾井第2遺跡出土微細自然遺物一覧.....	167

## 図 版

巻頭図版 1 ① 曽井第2遺跡遠景 (1) .....	巻頭 1
（道路後方から宮崎市街地（北北東方向）をのぞむ）	
巻頭図版 2 ① 曽井第2遺跡遠景 (2) .....	巻頭 2
（道路後方から宮崎市街地南部方面（東南方向）をのぞむ）	
巻頭図版 3 .....	巻頭 3
① A・C区全景（上から）	
② A区掘立柱建物群検出状況	
巻頭図版 4 .....	巻頭 4
① 1号井戸跡 [SF1] 半截状況	
② 2号井戸跡 [SF2] 半截状況	
③ 3号井戸跡 [SF3] 検出状況	
④ 5号井戸跡 [SF5] 検出状況	
巻頭図版 5 .....	巻頭 5
① 5号井戸跡 [SF5] 線板検出状況	
② 5号井戸跡 [SF5] 被覆線板検出状況	
③ 6号井戸跡 [SF6] 検出状況	
④ 石列B区検出状況（南方向から）	
巻頭図版 6 .....	巻頭 6
① C区石塔群（上から）	
② 六地蔵輪（東方向から。左：南輪、右：北輪）	
図版 1 ① 曽井第2遺跡全景 (3) .....	173
（道路後方から北方宮崎市街地をのぞむ）	
図版 2 ① 曽井第2遺跡全景 (4)（道路東方から） .....	174
図版 3 ① A区検出建物群集中区 .....	175
図版 4 ① 曽井第2遺跡全景 (4)（道路上方から） .....	176
図版 5 .....	177
① 1号井戸跡 [SF1] 検出状況	
② 5号井戸跡 [SF5] 検出状況 (1)	

## 目 次

図版 6 .....	178
① 5号井戸跡 [SF5] 検出状況 (2)（無形土坑を含む）	
② 5号井戸跡 [SF5] 検出状況 (3)（被覆木製品と井戸跡）	
③ 5号井戸跡 [SF5] 検出状況 (4)（被覆木製品と井戸跡）	
図版 7 .....	179
① 石列B区検出状況 (1)（南方向から）	
② 石列B区検出状況 (2)（北方向から）	
③ 石列B区検出状況 (3)（東南方向から）	
④ 石列B区検出状況 (4)（北後方から）	
⑤ 石列B区土層堆積状況（南後方から）	
⑥ 石列D・E区検出状況（東方向から）	
図版 8 .....	180
① 1号溝状造構 [SE1]	
② 3号溝状造構 [SE1]	
③ 1号土坑（門跡と考えられる土坑）	
④ 2号土坑（門跡と考えられる土坑）	
⑤ 土層堆積状況 (1)（A区南方向から）	
⑥ 土層堆積状況 (2)（A区中央部南方向から）	
図版 9 .....	181
① 池状造構 [SZ1]	
② 1号周溝状造構 [SL1]	
図版 10 .....	182
① 六地蔵輪南輪（東方向から）	
② 六地蔵輪北輪（東方向から）	
③ 六地蔵輪南輪塔身部 (1)（「曾井城」の記載）	
④ 六地蔵輪南輪塔身部 (2)（「永正十八年」の記載）	
⑤ 六地蔵輪南輪笠部（漆木表現）	
⑥ 六地蔵輪中台部（南輪のものと考えられる）	

図版11	183	③ 遺構外出土遺物 (1) [須恵器] ④ 遺構外出土遺物 (2) [土師器] ⑤ 遺構外出土遺物 (3) [土師器]	
① 六地蔵輪南輪塔身部 (3) (北面) ② 六地蔵輪南輪塔身部 (4) (東面) ③ 六地蔵輪南輪塔身部 (5) (西面) ④ 六地蔵輪南輪塔身部 (6) (南面)			
図版12	184	図版28	200
① 六地蔵輪北輪塔身部 (1) (西面) ② 六地蔵輪北輪塔身部 (2) (北面) ③ 六地蔵輪北輪塔身部 (3) (南面) ④ 六地蔵輪北輪塔身部 (4) (東面)		① 遺構外出土遺物 (4) [布痕土器] ② 遺構外出土遺物 (5) [青磁-碗・环] ③ 遺構外出土遺物 (6) [青磁-皿] ④ 遺構外出土遺物 (7) [白磁] ⑤ 遺構外出土遺物 (8) [青花染付-碗・皿] ⑥ 遺構外出土遺物 (9) [青花染付-皿]	
図版13	185	図版29	201
① 六地蔵輪南輪龕部 ② 六地蔵輪北輪龕部		① 遺構外出土遺物 (10) [土師器] ② 遺構外出土遺物 (11) [衛前系陶器] ③ 遺構外出土遺物 (12) [薩摩系陶器] ④ 遺構外出土遺物 (13) [陶製擂鉢] ⑤ 遺構外出土遺物 (14) [產地不明陶器] ⑥ 遺構外出土遺物 (15) [石器・硯・煙管・錢貨]	
図版14 ① 1号井戸跡[SF1]出土井戸枠板(処理後)	186	図版30	202
図版15 ① 1号井戸跡[SF1]出土井戸枠板(赤外線写真)…	187	① 遺構外出土遺物 (16) [石器] ② 遺構外出土遺物 (17) [石臼] ③ 遺構外出土遺物 (18) [石臼] ④ 遺構外出土遺物 (19) [瓦] ⑤ 遺構外出土遺物 (20) [瓦] ⑥ 遺構外出土遺物 (21) [瓦] ⑦ 遺構外出土遺物 (22) [瓦]	
図版16	188	図版31	203
① 5号井戸跡[SF5]出土井戸枠隅柱(処理後) ② 5号井戸跡[SF5]出土井戸枠横桟部(処理後) ③ 5号井戸跡[SF5]出土木製品 (1) (処理後) ④ 5号井戸跡[SF5]出土木製品 (2) (処理後) ⑤ 5号井戸跡[SF5]出土木製品 (3) (処理後) ⑥ 5号井戸跡[SF5]出土木製品 (4) (処理後)		① D区石塔群検出状況 ② D区石塔片検出状況 (1) [竿部] ③ D区石塔片検出状況 (2) [無縫塔] ④ D区石塔片検出状況 (3) [地輪・相輪・板碑] ⑤ D区石塔片検出状況 (4) [墓碑] ⑥ D区絆石検出状況	
図版17	189	図版32	204
① 5号井戸跡[SF5]出土綱板(処理後) ② 5号井戸跡[SF5]出土被覆綱板(処理後) ③ 5号井戸跡[SF5]出土綱板・ 被覆綱板(赤外線写真)		① 出土絆石 (1) ② 出土絆石 (2) ③ 出土絆石 (3) ④ 出土絆石 (4) ⑤ 出土絆石 (5) ⑥ 出土絆石 (6)	
図版18 ① 出土綠釉陶器・青磁	190		
図版19 ① 出土漬戸美濃系陶器… ・青花染付磁器・初期伊万里系磁器	191		
図版20 ① 出土唐津系陶器	192		
図版21 ① 出土肥前系磁器 (1)	193		
図版22 ① 出土肥前系磁器 (2)	194		
図版23 ① 出土肥前系磁器 (3)	195		
図版24 ① 出土肥前系磁器 (4)… ・產地不明陶器 (1)	196		
図版25	197		
① 出土薩摩系陶器・產地不明陶器 ② 池状遺構[SZ1]出土陶器類			
図版26	198		
① S E 3 出土遺物 ② S E 1・8・9 出土遺物 ③ 石列A区出土遺物 ④ S Z 2～5 出土遺物 ⑤ S Z 6 出土遺物 ⑥ S Z 8 出土遺物			
図版27	199		
① S L 1 出土遺物 ② S E 4・12 出土遺物			

## 第Ⅰ章 はじめに

### 第1節 調査に至る経緯

一般国道269号（加納バイパス）交通円滑化事業（国道）は、宮崎市中心部や清武町方面の慢性的な交通渋滞の緩和と安全で円滑な交通の確保を図ることを目的とし、平成11年度から事業計画が進められてきた事業である。

この計画をうけて、宮崎県教育委員会文化課（現：文化財課）では、平成15年度に宮崎土木事務所と事業地内の六地蔵幢を含む石塔群などの文化財取り扱いについて協議を行った。この協議を受け、文化課（現：文化財課）では、平成16年11月と平成17年2月に試掘調査を行った。

試掘調査の結果、明確な遺構は確認されなかったが、事業地内の丘陵裾部から古代～中世頃の土師器や近世の陶磁器片が出土し、密度については不明なもの、古代から近世にかけての遺跡の存在が確認された。また、事業地内にある六地蔵幢は、1942年の『日向ノ金石文』（宮崎県1942『日向ノ金石文』史蹟名勝天然記念物調査報告 第十二輯）に記載されており、同書の中でこの丘陵裾部一帯を瑞雲寺跡と推定している。これらを総合的に判断して、丘陵裾部分約4,300m<sup>2</sup>と石塔が残る丘陵斜面部約100m<sup>2</sup>を調査対象区域とする記録保存措置をとることになった。この調査対象区域は、周知の遺跡内ではなかったため、文化課と宮崎市教育委員会が協議を行い、「曾井第2遺跡」とすることを取り決めた。平成17年3月、県埋蔵文化財センターは、文化課・宮崎土木事務所と協議を行い、用地買取時にあわせて丘陵裾部分を一次調査として平成17年8月から、丘陵斜面部を二次調査として平成19年度5月から調査を実施することとした。

発掘調査は、一次調査が平成17年8月17日から平成18年3月6日までの約6.5か月間（調査実施日120日）、二次調査が平成19年5月24日から平成19年6月29日までの約1か月間（調査実施日19日）実施した。また、平成18年度には一次調査分の遺物整理作業を、平成19年度には一次・二次調査の遺物整理および一次調査・二次調査を合わせた報告書製作作業を県埋蔵文化財センター（本館・分館）で実施した。

### 第2節 調査の組織

曾井第2遺跡の発掘調査及び整理・報告書作成作業は下記の組織で実施した。

調査主体：宮崎県教育委員会 調査機関：宮崎県埋蔵文化財センター

（平成17年度）発掘調査[一次調査]

（平成18年度）遺物整理[一次調査分]

所長	長	宮園	淳一
副所長兼調査第二課長	岩永	哲夫	
総務課長	長	宮越	尊
総務課主幹兼係長	石川	恵史	
調査第二課調査第三係長	谷口	武範	
同課調査第三係主任主事	甲斐	貴充	
同課調査第三係主任主事	柳田	裕三	

所長	長	清野	勉
副所長兼調査第二課長	岩永	哲夫	
総務課長	長	宮越	尊
総務課主幹担当リーダー	高山	正信	
調査第二課主幹調査第三担当リーダー	谷口	武範	
同課調査第三係主任主事	甲斐	貴充	

（平成19年度）発掘調査[二次調査]・

遺物整理[一・二次調査分]・報告書刊行[一・二次調査分]

所長	長	清野	勉
副所長	長	加藤	悟郎
調査第二課長	石川	悦雄	
総務課長	長	宮越	尊
総務課主幹担当リーダー	高山	正信	
調査第二課主幹調査第三担当リーダー	福田	泰典	
同課調査第三担当主査	和田	理啓	[二次分担当]
同課調査第三担当主任主事	甲斐	貴充	[一次分担当]
調整担当[文化財課主査]	吉本	正典	

### 第3節 遺跡の位置と環境（第1図～第3図）

#### （1）曾井第2遺跡の立地（第1図）

曾井第2遺跡（第1図-1）は、宮崎市大字恒久字曾井5549番地口に所在する。遺跡は、宮崎市街地南西部、大淀川と清武川支流の古城川に挟まれた丘陵東斜面の裾部（標高9～12m）位置し、遺跡の東方には現在の宮崎市街地でもある標高7m未満の平野部が開けている。遺跡南東側の隣接丘陵地（当時尾根で繋がっていた同丘陵の可能性がある）は、縄文時代から江戸時代にかけての曾井遺跡であると同時に、中世から戦国時代にかけて曾井氏・伊東氏・島津氏の居城となった曾井城跡でもある。

#### （2）曾井第2遺跡周辺の遺跡（第2図）

##### ■曾井第2遺跡の成立以前

曾井第2遺跡（第1図-1）周辺の丘陵上には原始から古代にかけての遺跡がいくつか点在する。縄文時代、本遺跡は縄文海進・海退影響を受けるかどうかの境界線付近と考えられる標高に位置し、周辺は海岸線の高台となるような場所であるが、もう少し西方の標高の高いシラス台地に遺跡は集中するようである。周辺の縄文時代遺跡は、わずかに曾井遺跡（第1図-2）・源藤遺跡（第1図-3）岡ノ屋敷遺跡（第1図-4）などが存在する。点在する遺跡の大半は弥生時代の遺跡であり、遺跡周辺は弥生時代頃から生活の営みが本格的になると考えられる。周辺の遺跡は、曾井遺跡・古城遺跡（第1図-5）・古城第2遺跡（第1図-6）・下古城遺跡（第1図-7）・門前遺跡（第1図-8）・中岡遺跡（第1図-9）・加納遺跡（第1図-10）・福神屋敷遺跡（第1図-11）・町ノ前遺跡（第1図-12）などが存在する（文献①・②）が、中岡遺跡以外本格的な発掘調査が行われていないため、全容が不明である。古墳時代の遺跡は、隣接する丘陵中腹に曾井横穴墓（第1図-13）を造営するなど、数は少ないが存在する。

古代の遺跡は、周辺では確認されていないが、曾井第2遺跡では、輸入品である縄釉陶器片や多数の布痕土器片が出土した。これらは、古代の物流を考える上で鍵となる遺物といえる。これらがともに出土したことは、本遺跡が古代の物流や交通上何らかの役割を負っていた可能性が考えられる。10世紀前後に成立した「延喜式」によれば、日向国内官道の一つ大隅ルートは、諸説があり正確にはわからないものの、現在の広田（宮崎市）～教麻（清武町）～教武（田野町？）などを通るとされ（文献③）、広田～教麻間が遺跡近くを通っていた可能性は大いに考えられる。

##### ■曾井遺跡について

曾井遺跡（第1図-2）は、大正9年〔1920年〕山崎五十鈴氏の『宮崎縣の古墳から「貨泉」の發見』において、曾井遺跡の古墳から貨泉・方格規矩鏡・鉄劍・玉類などが発見されたと記されている（文献④）。しかし、昭和2年〔1927年〕の『宮崎縣史蹟調査第一輯 宮崎市宮崎郡之部』において、山崎氏は所有者から「直接の發見ではなく、曾井より出土したものとして譲渡してもらったに過ぎない」と述べられたことを記述しており、遺物は伝出土品として扱われている（文献④）。現在、貨泉は宮崎県総合博物館が所蔵している（文献⑤）。

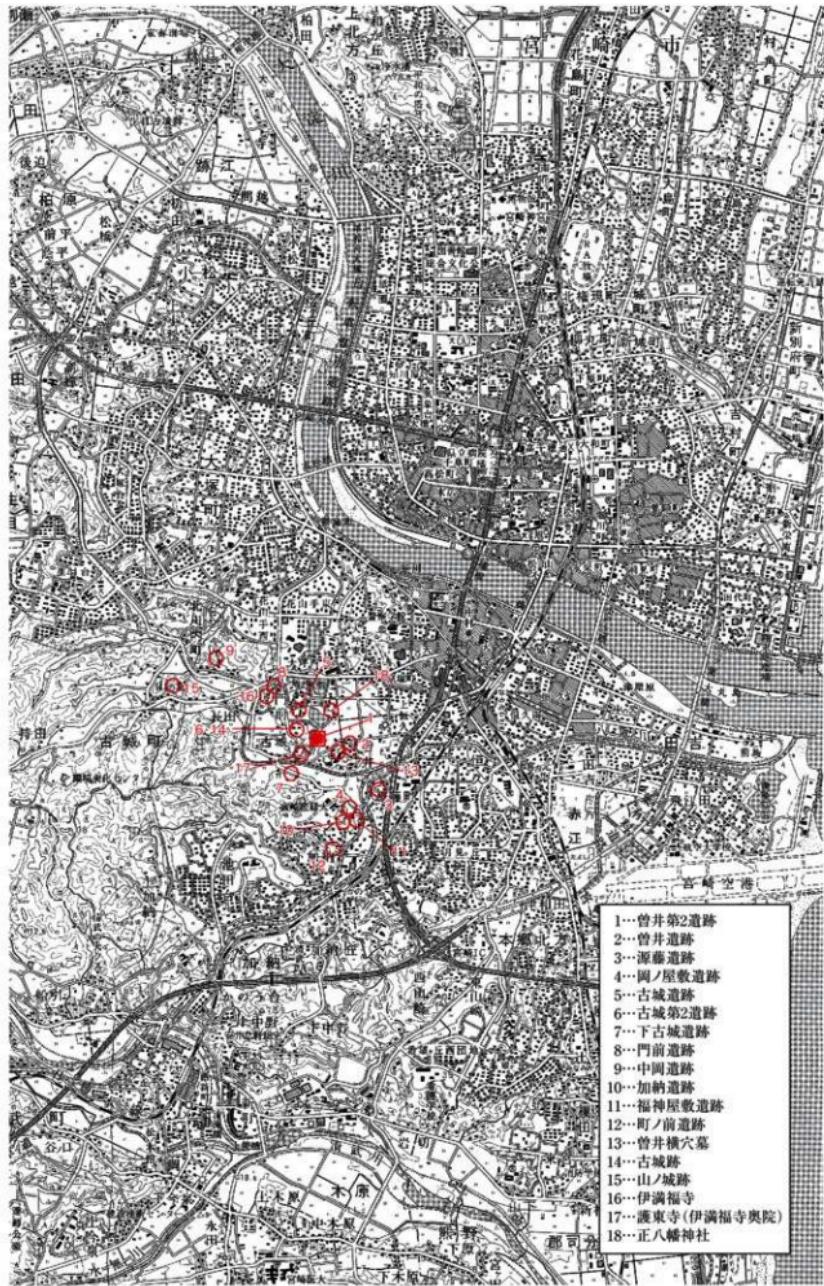
その後、曾井遺跡では、昭和39年〔1964年〕工事によって遺跡が破壊されているとの連絡を受け、宮崎高等学校郷土研究部の関係者や宮崎県教育委員会が工事の合間に縫って遺物の収集を行った。遺物は、縄文時代（主に後期から晩期にかけての縄文土器）・弥生時代（主に中期から後期にかけての弥生土器・磨製石器・軽石製品など）・古墳時代（管玉・小玉・須恵器など）・中世（輸入陶磁器・陶磁器・炭化した米や粟や小豆）などが出土した（文献⑥・⑦）。炭化物や輸入陶磁器は現在宮崎県総合博物館が所蔵している（文献⑤）。

##### ■周辺の中世遺跡と曾井城

遺跡周辺には中世遺跡が確認されておらず、中世の状況把握が難しくなっている。しかし、城跡や寺社跡が多く残っており、遺跡の中世を考える上で貴重な資料となる。

#### （1）曾井城について

中世の曾井第2遺跡を考える上で必要となってくるのは、曾井城との関連である。曾井城は南北朝頃から存



第1図 曽井第2遺跡周辺遺跡図(S=1/50,000)